

中海の利活用

中海で遊ぶ～中海のスポーツ利用～

①中海周遊サイクリングの推進

(中海周遊サイクリングを活用し、「サイクリングの聖地」としてイメージアップを図る)

②マリンスポーツ・レクリエーションの推進

(マリンスポーツなどが楽しめるエリアとしPRするとともに、周辺環境の整備を行う)

中海を観る～中海の観光利用～

③中海周辺観光

(「環境にやさしい中海圏域」をPRするとともに、自然環境を活かした観光振興を図る)

中海を活かす～中海資源の活用～

④水産資源の活用・回復

(中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、中海製品の復権を目指す)

⑤中海の「藻」の活用

(海藻を回収して産業などへ利用することにより中海の藻の循環システムを構築する)

⑥大型水鳥類との共生に着目した流域づくり

(大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を活かし、大型水鳥類を活用した観光振興を推進する)

中海を知る～環境教育～

⑦中海を題材とした環境教育

(次世代を担う子供たちの中海に対する意識を高め、ワイズユースを持続させる)

中海でつながる～一体感の醸成～

⑧ラムサール条約普及啓発の取組

(中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取り組みを進める)

⑨中海ワイズユース住民活動の推進

(住民自身が未来志向で実施する中海のワイズユースに資する企画を支援)

「中海の利活用に関するワーキンググループ」の検討状況について

中海会議利活用WG事務局
(鳥取県元気づくり総本部広域連携課)

【ワーキンググループ概要】

趣 旨：関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを享受・活用し、継承していくための取組を考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。

構 成：別添名簿のとおり。(事務局は鳥取県元気づくり総本部広域連携課及び島根県政策企画局政策企画監室。内容により名簿記載以外の部課も適宜参加)

【これまでの開催経過】

○OWG打合せ会 平成22年6月22日

内容：設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。

○第1回WG 平成22年9月2日

内容：設置要綱を確認。検討の方法等を協議、まずは検討の柱5つを以下のとおり設定。

(テーマ：一体感の醸成“中海でつながる” 水面のスポーツ利用“中海に親しむ遊ぶ”
海藻の利用“中海で循環する” 食文化“中海の恵みをいただく”
環境学習“中海を知る”)

○第2回WG 平成22年11月8日

内容：現在取り組まれている既存事業等を整理。検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業へ。

○第3回WG 平成23年3月17日

内容：各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約。内容を吟味し、方向性について確認。

○第4回WG 平成23年6月29日

内容：利活用アイデア(たたき台)について、既存事業・既存団体との関わりや実現可能性、経費面など、個別具体的な内容について検討し、効果・波及度、実現性が高いもの(既に実施中を含む)などをセレクト。

○第5回WG 平成24年3月14日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第6回WG 平成24年7月9日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第7回WG 平成25年3月18日

内容：利活用アイデアの状況及び今後の推進方針等を確認。また、中海利活用WGの今後の進め方について協議。

○第8回WG 平成25年5月1日

内容：第7回WGにおいて協議した今後の進め方について再協議。WGで提案された利活用アイデアだけでなく、他団体で取組まれている内容も一覧にして会議へ報告することを確認。

○第9回WG 平成26年7月4日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第10回WG 平成27年6月26日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。今後のアイデアの取り扱いについて方向性をまとめていくことを確認。

○第11回WG 平成28年5月24日

内容：WG構成員に島根県商工労働部観光振興課を追加。利活用アイデアの取り組み状況を確認し、提案内容を整理することを確認。

○第12回WG 平成29年6月14日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

①中海周遊サイクリングの推進

1 目的

景観や観光資源等に優れた中海周辺を、地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめるよう周遊コースを提示するなど、豊かな水辺環境を実感できる環境を鳥取・島根両県で一緒につくり、中海が「サイクリングの一大聖地」となることを目指す。

2 取組みの成果

(1) サイクリングコースの認知度向上

中海周遊サイクリングコースには、山陽、関西方面など山陰両県以外のサイクリング愛好者も訪れており、認知度が向上している。

サイクリングイベントとして開催されている中海ライドは、近年は認知度の向上やサイクリングブームも追い風となって参加者が増加しており、圏域の活性化が図られている。

中海ライド参加者の推移

(人)

H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
207	264	251	307	361	-	268

※H28は雨天により中止。

(2) 広域サイクリングコースの設定

鳥取、島根、広島、愛媛の4県を結ぶ広域サイクリングルート（全長380km）を平成29年5月に設定し、それに併せてマップを作成した。

（山陰ルート（70km）～やまなみ街道ルート（187km）～しまなみ海道サイクリングロード（69.9km）～今治・道後はまかせ海道（52.1km））

(3) サイクリングエイドの登録整備

鳥取県では、レンタサイクル等総合拠点「コグステーション」及び「サイクルカフェ」を整備してサイクリスト支援体制「ダイジョウブシステム」を構築。

また、鳥取県と包括協定を結ぶコンビニエンスストア3社の県内店舗の一部を「サイクルポート」として整備。

島根県では、平成28年度にご縁サイクルステーション（サイクリストの休憩所）制度を創設。

3 今後の取組み

(1) 広域サイクリングコースの活用

4県連携広域サイクリングルートの充実と活用、相互誘客を目的として、英語版のサイクリングマップの作成等について検討を行っていく。

(2) 米子市における自転車活用推進

平成28年8月に自転車の活用を視点にしたまちづくりに関する研究のため、市役所庁内に「米子市自転車活用推進研究会」を設置。

環境面はもとより、スポーツや観光面、あるいは健康づくりの面など、様々な視点から幅広く研究し、平成30年度の事業化に向けた検討を行う。

(3) 松江市における自転車活用推進

「しまなみ海道」と「やまなみ街道」のサイクリングコースを設定しているが、尾道と今治に続き、昨年8月に松江しんじ湖温泉駅横にジャイアントストアがオープンした。自転車活用の追い風であり、中海での推進にもつなげていく。

また、今年度末の竣工に向け、水陸両用機の離発着場の整備を進めており、本施設には、サイクリスト向けの休憩施設機能も併設し、中海周遊サイクリングコースとの連携を進めていく。

4 これまでの取組み

- ・H22年度 「サイクリングロード整備検討会」(鳥取県組織)を設置
- ・H23年度 「大山中海サイクリングマップ」を試作・公表
「宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議」(島根県組織)を設置
- ・H24年度 専門家による検討中コースの試走(島根県)
- ・H25年度 コース案について道路管理者・公安委員会等と協議
レンタサイクル等総合拠点「コグステーション」(大山等3カ所)及び「サイクルカフェ」(西部地域のカフェ、レストラン16店舗と連携)を整備し、安心・安全・快適に自転車を楽しむためのサービス(水・修理工具の提供、休憩・トイレの利用等)を提供(鳥取県)
- ・H26年度 サイクリングロードの環境整備(路面表示等)、サイクリングマップ完成、台湾からのサイクリングツアーの受入れ(鳥取県)
鳥取県と包括協定を結ぶコンビニエンスストア3社の県内店舗の一部(約110店舗)を「サイクルポート」として整備(鳥取県)
- ・H27年度 サイクリングイベント「中海ライド2015」で中海周遊サイクリングコースの一部を利用
- ・H28年度 ご縁サイクルステーション制度の創設と登録施設公表(島根県)
「やまなみ街道サイクリングルート」と「中海周遊サイクリングコース」活用のための接続ルートを決定(島根県)

広域サイクリングルート



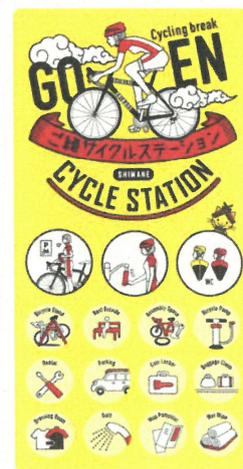
中海周遊サイクリングコース



サイクルカフェ (鳥取県)



ご縁サイクルステーション (島根県)



②マリンスポーツ・レクリエーションの推進

1 目 的

自然豊かな中海及びその周辺環境を生かしてマリンスポーツ・レクリエーションが楽しめるエリアを形成し、その活用によって周辺住民の福利を増進させるとともに、圏域外にPRすることにより来訪者を増やして中海圏域の振興を図る。

2 取組みの成果

平成28年度に開催した中海オープンウォータースイム、なかうみマラソン全国大会は、県外からの多くの参加があり、圏域外へPRの機会となっている。また、中海・宍道湖レガッタは、中海周辺住民を中心に参加しており、心身の健康増進、参加者間の交流が進んでいる。

3 今後の取組み

(1) イベントの継続

①中海オープンウォータースイム

- ・開催日：H29. 6. 24～25 場所：米子湾、米子市湊山公園 参加者数：195人
- ・NPO中海再生プロジェクトが、スローガンである「10年で泳げる中海」をNPO活動10年目の平成23年に実現。
- ・オープンウォータースイミングは平成20年北京五輪から正式種目になった競技。
- ・本年度は、オープンウォータースイム日本選手権出場権をかけた選手権の部と一般の部を分離し、子供も楽しめる親水イベントをあわせて開催。

②中海・宍道湖レガッタ(2会場で開催予定)

○「第2回中海・宍道湖全国小中学生交流レガッタ大会」

- ・開催予定：H29. 9. 23, 24 場所：米子市湊山公園内 錦海ボートコース 予定参加数：未定
- ・小中学生を対象とした4人漕ぎボートのレース。

○「第3回中海・宍道湖レガッタ」

- ・開催予定：H29. 9月 場所：松江市美保関万原ボートコース

③なかうみマラソン全国大会

- ・開催日：H29. 11. 5
- 場 所：安来市中海湖岸
- 予定参加者数：約5,000人
- ・平成17年から開催し、今年度13回目となる。
- ・景観の美しい中海湖岸を走る、山陰最大の市民マラソン。



上記の他、「中海ペーロンフェスティバル」、「境港ボートマラソン大会」、「全山陰マスターズレガッタ」、「境港ボートレース大会」等、多くのマリンスポーツが行われている。

(2) マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

①カイトボードゲレンデの周辺整備（一例）

- ・安来市飯梨川河口は、カイトボードの西日本有数のゲレンデであり、関西や中国地方一円から愛好者が来訪している。
- ・平成28年度に、ゲレンデ周辺に安来市、出雲河川事務所が協力して駐車場を整備した。
- ・平成29年度は、漁業者とマリンスポーツ愛好者が気持ちよく水辺を活用できる「飯梨川河口ルールマップ」を作成し配布した。
- ・野鳥や漁業との共存、トイレ等の周辺整備、情報発信が今後の課題である。



安来市飯梨川河口

※カイトボード：

専用のカイト(凧)を用いて、ボードに乗った状態で水上を滑走するウォータースポーツ

4 これまでの取組み

各イベントの参加者数

参加者数の推移

	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
中海オープンウォータースイム	人	110	163	167	185	199
中海・宍道湖レガッタ(※)	クルー	54	51	22	56	43
なかうみマラソン全国大会	人	5,479	4,967	4,996	5,305	4,907

※平成26年度までは中海レガッタ



5 関連するアイデア

(1) 環日本海国際トライアスロンin中海

- ・「全日本トライアスロン皆生大会」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設。「中海湖岸周遊コース」を設定して、新たな風景（江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等）を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらう。

③中海周辺観光

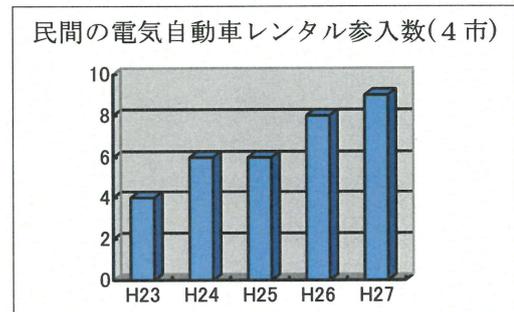
1 目 的

中海周辺エリアにおいて電気自動車（EVカー）の充電施設を整備するなど、中海の水辺環境を満喫しながら周遊できる環境づくりを推進して「環境にやさしい中海圏域」をPRするとともに、自然豊かな中海及びその周辺環境を生かした観光振興を図る。

また、中海会議でのアイデアや民間の取組みを、山陰インバウンド機構及び平成29年7月に設立した中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構による山陰ブランドの構築等に活かしていく。

2 取組みの成果

中海周辺4市合同で実施した急速充電器の設置やEVドライブマップの作成及び昨年まで実施していたEV公用車の休日のレンタカー利用等の取組みにより、電気自動車の利便性が向上し、インフラ整備が進んだことから民間事業者が新たに電気自動車レンタル業に参入が促進され、環境に優しい中海圏域の取組みが進んでいる。



3 今後の取組み

(1) 水陸両用機による遊覧飛行の取組み〔民間〕

- ・水陸両用機を使用したチャーター便の運航が平成30年度から運航予定であることから、松江市の中海の西岸に水陸両用機の昇降場、駐機場、サイクリスト向けの休憩所等を整備し、併せて水鳥観察といった機能も加えて、中海振興の拠点として交流人口の増加を図る。

(2) 国引きジオパークの取組み

- ・国引きジオパークでは、国内最大の連結汽水湖である中海・宍道湖も重要な取り組みエリアとなっており、ジオサイト（ジオパークのポイント）と観光地をつなぐ観光振興、ジオ学習会等による環境保全教育を進める。

(3) EVカーの普及啓発

- ・圏域内の急速充電スタンド設置箇所、急速充電スタンド設置箇所一覧、EVでまわるおすすめドライブコースなども掲載した「中海・宍道湖・大山エリアEVドライブガイド」を活用し、急速充電スタンド設置箇所や道の駅、各市観光案内所、観光施設、公共施設等、及び市長会事務局で配布し、普及啓発に努める。

(4) インバウンド対策

- ・増加している外国人観光客の利便性向上等を図るため、外国語によるコミュニケーションの円滑化への取組みをはじめ、Wi-Fi環境の整備、観光案内標識の外国語表記、消費税免税店の拡大などの受入環境整備を引き続き実施する。
- ・また、更なる外国人観光客の誘客を図るため、SNSによる情報発信も引き続き実施する。

4 これまでの取組み

- ・EV公用車の休日レンタカー利用

導入数：10台（中海・宍道湖・大山圏域市長会 6台
（米子市2台、境港市1台、松江市2台、安来市1台）
松江市単独3台、鳥取県1台）

レンタル実績：306回（4市計：H23.10.15～H28.10末）

- ・急速充電器の設置

中海・宍道湖・大山圏域市長会：4カ所

（皆生温泉観光センター、境港市役所、松江市役所、道の駅「あらエッサ」）

松江市：2カ所（道の駅「本庄」、道の駅「秋鹿なぎさ公園」）

米子市：1カ所（米子市役所第2庁舎）

その他：くにびきメッセ、島根県立浜山公園、山陰自動車道宍道湖SA上り・下り、
由志園、自動車販売会社、コンビニ、鳥取県西部総合事務所など



5 関連するアイデア

(1) ECO シップコンテスト in NAKAUMI

- ・中海周辺には、電気関係事業や高等教育機関、エネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する（「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗）。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。

(2) 中海周遊船の運航

- ・中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航。

④水産資源の活用・回復

1 目 的

かつて中海で多く水揚げされ、地域の食文化を形成していた中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、食文化を復活させる。また、環境や社会に配慮したメニューを「エシカルフード」として提供して、環境意識の醸成を図る。

エシカル (ethical) という用語は、「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、最近は「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用。

2 取組みの成果

(1) 中海の水産資源を活用した新商品の開発・発売

- ・中海産オゴノリ入りクッキー
- ・スジアオノリ入りようかん
- ・赤貝の身やエキスをを用いた炊き込みご飯の素
- ・中海産赤貝の旨煮

(2) 水産資源の回復

- ・サルボウガイの復活 (H26 : 2.7 t → H27 : 4.2t →H28: 7 t)
- ・アサリのカゴ養殖 (H26 : 350kg → H27 : 400kg →H28:450kg)
- ・ウナギの稚魚放流 (H26 : 7,000匹 → H27 : 28,800匹 →H28:27,700匹)

3 今後の取組み

食文化の復活のためには、水産資源の効率的な養殖方法、採算性などの課題を解決し、安定的に供給する必要がある、以下の取組みを進める。

(1) サルボウガイ復活への取組み

- ・島根県・中海漁協・安来市及び松江市による種苗の安定確保試験、延縄式カゴ垂下養殖試験などを継続して実施し、低コスト化及び大量生産を目指す。
- ・中海漁協では、平成28年度7トンの生産量を、平成29年度は10トンまで延ばすことを目標にしている。

(2) アサリのカゴ養殖

- ・中海漁協では、松江市の補助事業を活用して養殖施設を拡充しており、平成28年度450キロの生産量を、平成29年度は500キロまで延ばすことを目標にしている。

(3) ウナギの稚魚放流

- ・松江市が (公社) 島根県水産振興協会へ委託し、昨年度に引き続き稚魚を放流する。

(4) 地熱資源の利活用

- ・皆生温泉など中海エリアは、温泉に恵まれた地域であり、松江市で地熱ポテンシャル調査をしたところ、地熱の潜在能力が高い結果が出た。
- ・今後、地熱発電はもとより、農業や水産業への熱利用について、可能性を検討していく。

4 これまでの取組み

(1) 中海食材の提供

- ・島根県庁食堂で中海の食材を使ったメニュー案を策定。
- ・第2回中海会議から、中海食材を使った料理を提供し試食（赤貝めし弁当、スズキの昆布締め等）
- ・平成24年大会から「中海OWS」参加者へ、中海食材を使ったアサリ汁等の料理を提供。

(2) 中海食材の開発に関連する取組み

①民間事業者による中海食材の加工品販売

- ・松江市内のパン店で中海のオゴノリを練り込んだクッキーを販売。販売額の一部はNPOに寄附され、中海の環境改善等に役立てられる。
- ・道の駅本庄でスジアオノリ入りようかんを販売
- ・松江市の「まつえ農水商工連携事業」を活用し、出荷規格に満たないサルボウガイを加工してレトルトパックにした「中海産赤貝の旨煮」を開発し、道の駅「本庄」、大根島直産市などで販売

②サルボウガイ復活への取組み

- ・県水産技術センター、中海漁協、安来市及び松江市の4者は連携してサルボウガイの種苗確保のため天然採苗や人工採苗に取り組み、安定的に種苗を確保することが可能となった。
- ・平成24年度から、中間育成後の放流を取りやめ、漁業者による延縄養殖施設でのカゴ養殖試験を実施し、生産量の増加につながった。



サルボウガイのカゴ養殖



養殖試験中のサルボウ稚貝



サルボウガイの人工種苗の生産



ウナギの稚魚放流

⑤ 中海の「藻」の活用

1 目的

かつて肥料や食用加工品として採取されていた海藻を「未利用資源」ととらえ、新しい産業へ結びつける。海藻を回収し湖外へ搬出することにより水質浄化につなげるとともに、有機肥料などの原材料として使用することで、水質浄化と産業創出を兼ね備えた資源循環の仕組みを構築する。

2 取組みの成果

(1) 循環型ビジネスの起業

- ・島根大学と連携し、海藻を使った肥料の製造、販売に取り組むベンチャー企業「なかうみ海藻のめぐみ」が創業。
- ・中海の水質汚濁の一因となっているオゴノリを回収・加工して肥料を製造。

(2) 未利用資源の活用と食育・環境教育の充実

- ・海藻肥料を使い栽培した「海藻米」を、平成27年度の二学期から境港市の学校給食に使用。
- ・「海藻米」は、日野川上流の日野町を中心に栽培されており、日野川の上流と下流が連携することで、食育・環境教育の充実が図られている。

(3) 海藻米のブランド化、販路開拓

- ・平成28年10月に、米子高島屋が「鳥取海藻米」の名称で全国販売を開始。また「瑞風」の乗客に向けた販売を開始するなど、海藻米のブランド力向上及び販路開拓に期待が高まる。

3 今後の取組み

- ・海藻刈りによる栄養塩循環システム自立支援事業（鳥取県）
 - ①海藻を刈取って回収し利活用業者へ引渡し、海藻肥料等に加工し農地に利用。
 - ②栄養塩循環システムモデルを持続可能なものとするための課題は以下のとおり。
 - 海藻の繁茂が年によって大きく異なる傾向があるとともに、消長が短いものがあり、その把握が必要。
 - 乾燥は天候の影響を受けやすく、乾燥技術の確立が必要。
 - 安定した製造原価の確立、回収コスト及び製造コストの削減。
 - 販路拡大、ブランド力アップ、他の堆肥等との差別化、原材料の安定供給。
- ・引き続き、境港市の学校給食として「海藻米」を使用。
- ・中海産海藻肥料による農業改革セミナー
- ・平成28年度から、鳥取・島根広域連携協働事業を活用し、鳥取県、島根県の民間団体2者により、「藻が〜る一鬼太郎もびっくり！ご縁を結ぶ中海のお・ご・の・りー」を実施。平成28年度は、事業を計画を策定し、平成29年度は、海藻刈りの環境学習、海藻刈り体験の開催を実施。

4 これまでの取組み

(1) 海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業

- ・認定NPO法人自然再生センター（島根）、海藻農法普及協議会（鳥取）に委託し実施。平成23年度は343トン、平成24年度は295トン、平成25年度は275トンを回収し利活用業者へ引き渡し。
- ・平成26年度から補助金制度に事業を改め継続実施。平成26年度は340トン、平成27年度は332トン、平成28年度は324トンを回収。



(2) 海藻農法による農業再生プロジェクト

- ・海藻農法導入農家50農家、導入耕地面積40ha以上。野菜市、セミナー・説明会開催。
- ・通販サイトの立ち上げ等を実施。
- ・平成26年度は海藻農法普及協議会にて海藻農法によるブランド化の取組みを推進。
- ・平成27年度から境港市の学校給食に海藻米を提供。
- ・平成28年度に海藻肥料を製造・販売する島根大学発ベンチャー企業「なかうみ海藻のめぐみ」を設立。

(3) 藻の回収参加型イベント

- ・平成23年度から藻刈り体験、水環境学習会、中海の幸の試食会等を実施。平成23年度約30名、平成24年度約50名、平成25年度約70名の参加。
- ・平成26年度からは認定NPO法人自然再生センターの自主事業として実施。上記取組に加え、海藻肥料で育てたサツマイモの芋ほり体験を実施。平成26年度は約30名、平成27年度は約40名、平成28年度は約40名が参加。



(4) 旧加茂川藻刈り体験事業

- ・平成23年7月の「クリーンアップin加茂川2011」に、市民、各種団体等の200名が参加。以後毎年実施。

(5) 調査研究

- ・藻の分布・現存量調査、成分分析を行い、両県行政担当者とNPO法人との意見交換を実施。
- ・肥料の施用効果について、平成23年度と平成24年度に白ネギ、トマト、サツマイモへの施用効果を検証し、平成25年度からは水稻で施用効果を検証中。

⑥大型水鳥類との共生に着目した流域づくり

1 目的

中海を含む斐伊川水系は、我が国を代表するガン類・ハクチョウ類・ツル類・コウノトリ・トキ等の大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を有している。この大型水鳥類を指標とした、水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指す。

2 取組みの成果

- ・大型水鳥類を指標とする生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現を図るための効果的方策について検討することを目的として「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」および「生息環境づくり部会」「地域づくり部会」を設置。
- ・生息環境づくりに向けた取り組みとして、先行して保全・整備を進めていく事業候補地（出雲エリア）において、マコモの植栽や湿地の再生等に着手。中海周辺についても生息環境向上の可能性について検討に着手。
- ・地域づくりについて、「観光」と「農業」を柱とした地域振興を展開していくことを決定。
観光分野については観光協会等と連携し現地研修を実施。圏域市長会と連携しフォトコンテスト、スタンプラリーを実施。
農業分野については、農産物のブランド化に向けてJA等との勉強会を実施。



3 今後の取組み

- ・生息環境づくりについて、大型水鳥類の生息環境を形成するための自然再生計画の検討に着手
- ・地域づくりについて、「観光」と「農業」を中心に大型水鳥類の魅力を活かした地域振興を関係者とともに検討する。
観光分野については、観光商品に関する検討を行うとともにより広く認知されるためのキャッチコピー等の検討を行う予定。
農業分野については、ワーキンググループを立ち上げ農産物のブランド化の検討を行う予定。

4 これまでの取組

- | | |
|---------------|-------------|
| ・第1回協議会 | 平成27年4月28日 |
| ・第2回協議会 | 平成27年10月13日 |
| ・第1回生息環境づくり部会 | 平成27年12月18日 |
| ・第1回地域づくり部会 | 平成28年1月29日 |
| ・第2回生息環境づくり部会 | 平成28年2月8日 |
| ・第3回協議会 | 平成28年2月22日 |
| ・第2回地域づくり部会 | 平成28年12月15日 |
| ・第3回生息環境づくり部会 | 平成29年1月12日 |
| ・第4回協議会 | 平成29年3月15日 |

斐伊川水系 生態系ネットワーク 検討体制

中海・宍道湖・大山圏域の経済、観光、農業、漁業、行政、専門家などの多様な主体が集まり、人と大型水鳥類が共生する魅力的な地域づくりにむけた取組を始めています。

生態系ネットワーク形成にむけて

斐伊川水系 生態系ネットワークによる
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
中海・宍道湖・大山圏域の
関係者が集まって 話し合う場

人と大型水鳥類がともに暮らす地域づくりの表現と、地域の魅力を引き出すための取組を行います。

大型水鳥類が
くらしやすい
流域を考える場

大型水鳥類がくらしやすいよう、河川・農地などの環境の改善方法をみんなで考えます。

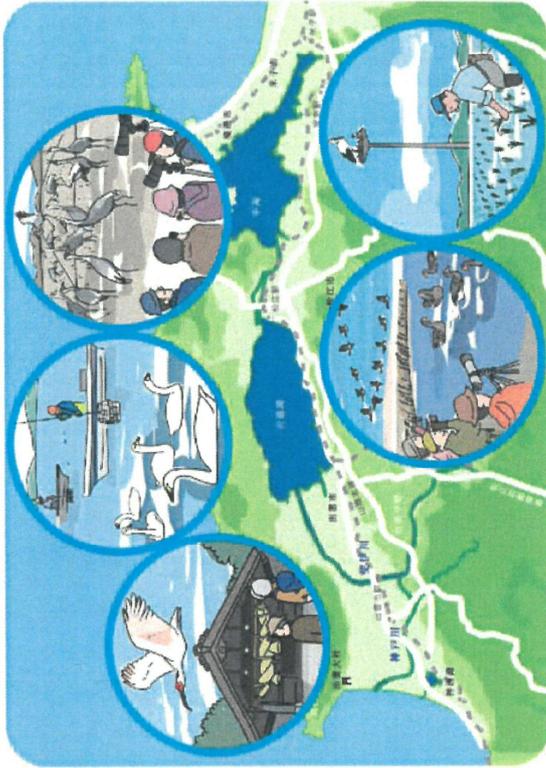
生態系ネットワークづくり部会

大型水鳥類の
魅力を活かす
仕組みについて
考える場

大型水鳥類が舞う地域の魅力を、農業・観光などの観点からみんなで考えます。

地域づくり部会

事務局：国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所



● 農産物のブランド化



● 冬季の観光資源



大型水鳥類の
魅力を
活かす例

● お土産の開発



● コウノトリをモチーフにしたお土産など



大型水鳥類がくらしやすい流域づくりの推進

⑦ 中海を題材とした環境教育

1 目的

次世代を担う子供たちに対し、中海を題材とした環境教育を行うことにより両県共通の貴重な財産である中海に対する意識を高め、賢明利用（ワイズユース）を将来にわたり持続させる。

2 取組みの成果

- ・各NPO法人を中心に、中海を題材にした様々な環境教育が実施されており、地元への愛着、環境への理解が促進され、また、中海の水質調査、水質浄化体験などを通し、中海の水質に関する意識が高められるなど、次世代を担う子供たちの意識の向上が図られている。
- ・NPOの活動は、表彰を受けるなど高い評価を受けている。
 - ①スジアオノリの養殖・加工…生物多様性アクション大賞2015入賞（環境省）
第8回こどもエコグランプリにおいてグランプリ受賞（日本海テレビ主催）
 - ②オゴノリ刈りと海藻肥料によるサツマイモ堀体験
…生物多様性アクション大賞2014審査委員賞受賞（環境省）

3 今後の取組み

(1) NPO法人等の取組に対する支援

- ・NPO法人主体の各種取組みに対して、両県協働の補助金や、「鳥取県環境保全活動支援補助金」など各種補助金の交付、取組みへの参加を通じて支援する。

(2) 湖沼環境モニターの実施

- ・県民モニターの五感（見る・聞く・触れる・臭う・味わう）による湖沼環境の調査を実施し、地域住民が取り組む清掃活動や自然再生に向けた活動などの効果及び流域住民が湖沼に親しみを感じられる指標作りに取り組む。

(3) 環境学習会の開催

- ・子どもから大人まで多くの方々に、両湖に触れて、現状を体感してもらうことにより、水辺に親しみをもち、宍道湖・中海への関心を深めてもらうとともに、水質保全等の環境意識を高めるため、シジミ取り、藻刈りなどの環境学習を実施する。

(4) イベントの継続実施による意識の向上

- ・これまで実施してきたイベントを継続して実施し、中海に対する意識を更に高める。

4 これまでの取組み

(1) スジアオノリの養殖・加工〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市本庄小学校の児童を対象に、平成25年度からアオノリの収穫、板アオノリ作りなどの体験学習を実施。
- ・平成27年度は、道の駅本庄において、養殖したスジアオノリを使ったようかんの販売開始イベントを開催。
- ・ようかんは、道の駅本庄、JR松江駅、認定NPO法人自然再生センター事務所、八束町の産直市で販売。



(2) 伝統食文化伝承〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市意東小学校の児童を対象に、地元住民の協力のもと、「ゴズの昆布巻き」作りの体験学習（H24～H26）を実施。
- ・平成27年度から赤貝の調理実習、中海産赤貝の販売体験などを実施。

(3) 中海に触れる活動〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市意東小学校の児童を対象に、矢田の渡し船を活用した中海でのクルージングを実施し、中海の現況を学ぶため、透視度やバックテスト等による水質調査や生き物の観察を行った。



(4) 藻刈り・海藻肥料を施肥した畑におけるサツマイモの収穫〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市八束学園の児童を対象に、資源循環の意義、宍道湖・中海の湖沼環境に係る意識を啓発することを目的とした体験学習を実施。



(5) 中海ポスター・中海環境標語コンクール〔NPO法人中海再生プロジェクト〕

- ・地域の未来を担う児童を対象に、中海についてのポスター制作を通して中海への関心を高め、「未来の中海の形成者」であることの意識を醸成するコンクールを開催。
- ・あわせて、大人も参加できる環境標語コンクールも開催。

(6) 中海体験クルージング・中海環境フェア〔NPO法人中海再生プロジェクト〕

- ・市民に中海の浄化・活性化を呼びかけることを目的に、ヨット・クルーザーによる中海周遊と同時に、参加者に五感で楽しく中海を知ってもらうため、中海の魚や鳥、環境についての展示見学を実施。

(7) アマモ場の保全・再生の取組〔NPO法人未来守りネットワーク〕

- ・平成17年度から、かつての美しい中海、漁業資源の豊富な中海を取り戻すため、アマモ場を復活させる活動として種子採取、勉強会、移植イベントを開催。

(8) 水質浄化体験イベント〔湖底こううん隊〕

- ・米子市内の有志が平成26年に「湖底こううん隊」を設立し、米子市湊山公園において、中海周辺の親子ら地域住民を対象に水質浄化の手段としての「湖底こううん」の効果を検証するイベントを開催。

(9) ラムサール条約登録湿地・子どもパークレンジャー〔中国四国地方環境事務所〕

- ・ラムサール条約登録湿地である国指定中海鳥獣保護区において、子どもたちを対象に自然体験活動等を通じて、生物多様性についての理解を深め、自然の大切さを知ってもらい自然を守る心を育むための事業を実施。

5 関連するアイデア

(1) 高等教育機関と連携した人材育成

- ・大学と行政が連携して、中海に愛着や興味がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など(『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。中海に関する「学び」を通して、受講者に生涯学習的な充実感を得ていただくとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらおう。

⑧ラムサール条約普及啓発の取組

1 目 的

鳥取・島根両県で地域住民や次世代を担う子どもたちの参加型普及啓発事業を実施することにより、貴重な財産である中海・宍道湖を賢明に利用（ワイズユース）する意識を醸成する。

2 取組みの成果

- ・15年ぶりの全国規模のシンポジウムとなる「ラムサールシンポジウム2016in中海・宍道湖」を開催し、両県民に対し中海が学術的にも貴重な湿地であることを啓発した。
- ・平成28年5月に、情報発信掲載の利便性、迅速性、発信力（情報の広がり）を強化する観点から、インターネットホームページから、フェイスブックに移行し、情報発信力を強化した。

3 今後の取組み

(1) 各種イベントの開催

- ・中国四国ブロックサイクリング鳥取県大会 中海バイク&ラン (H29. 10. 9、中海周辺)
スタンプラリー方式で中海周辺をサイクリング又はランニングしながら、中海について学べるワイズユースイベントを鳥取県サイクリング協会と実施。平成29年度はこれまでの地元を中心とした若い世代の親子に加え、県内外のサイクリストの参加者が見込まれることから、県外に向けて中海の魅力を発信し、より一層の推進を図る。
- ・こどもラムサール交流事業 (H29. 11. 18～19)
次世代の湿地保全を担うリーダー育成、他の登録湿地との交流ネットワークの形成を目的として、中海・宍道湖周辺で活動する子どもたちを他の登録湿地へ派遣し、交流・学習を行う。(H29の派遣先：山口市きらら浜自然観察公園)
- ・住民の環境意識の醸成と湿地の賢明な利用促進のため、ワイズユースイベントを実施していく。
- ・ラムサールシンポジウムの開催 (11月予定)
中海・宍道湖での環境活動や利活用事例を県民に周知することで、県民へ更なる広がり及び定着を促すためシンポジウムを開催する。
また、佐賀市で開催される「アジア湿地シンポジウム」へ中海での活動者を派遣し、発表・意見交換を行う。

(2) ポータルサイトによる更なる情報発信

- ・SNSを活用し、中海・宍道湖関連催事の情報を集約して発信を行う。

4 これまでの取組み

(1) 保全再生

- ・中海・宍道湖一斉清掃

条約登録の翌年（平成18年度）から鳥取・島根両県、沿岸自治体、住民等の参加により、全会場で実施日を統一（環境月間である6月の第2日曜日）して実施。毎年約8,000人が参加し、これまでの延べ参加者は約8.9万人、回収したごみの量は累計約206トン。



H28 湊山公園親水護岸（米子市）



H29 みさき親水公園（安来市）

(2) 交流学習

・こどもラムサール交流

国内外の湿地で活動しているこどもたちとの交流会を継続実施し、次世代のリーダーの育成を図ってきた。

(主な交流先)

谷津干潟(千葉県/H23～)、豊岡(兵庫県/H23～)、琵琶湖(滋賀県/H23～)、東与賀海岸(佐賀県/H26～)、チュナム貯水池(韓国昌原(チャンウォン)市/H22、27)、マイポ湿地(中国香港/H27)、昌原(チャンウォン)市(韓国/H28)



(3) 普及啓発

・シンポジウム

記念シンポジウムや全国シンポジウムなどを開催し普及啓発を図ってきた。

(近年の実施内容)

ラムサール条約リレーシンポジウム(H23～H25両県が連携実施)

ラムサール条約登録10周年記念事業ラムサールシンポジウム、ラムサールフェア(H27両県が連携実施)

ラムサールシンポジウム2016 in 中海・宍道湖(H28環境省、鳥取・島根両県、中海・宍道湖・大山圏域市長会、日本国際湿地保全連合等で共同実施)



・その他イベント

① 中海バイク&ラン

平成27年度より実施し、若い親子世代を中心にサイクリング又はランニングによる中海の魅力を感じてもらう。

② 鳥取中海SUPフェスティバル

平成28年8月に開催し、県内外の多くの参加者に、中海をSUP等の水辺のアクティビティが楽しめる場所としてPRした。



・ポータルサイト

情報発信強化のため、フェイスブックに移行

5 関連するアイデア

(1) 環境負荷の軽減行動の指標化 ～私たちにできること～

- ・清掃活動、藻の除去、下水道接続などのNPO等団体活動や市民生活行動が、中海の水質に貢献している関係を解り易くするため、数値又は指標化する。学習教材やホームページに反映することにより、関係性の自覚と水質環境貢献行動へのやりがいを生む効果が期待される。

⑨ 中海ワイズユース住民活動の推進

1 目的

中海圏域の住民から中海の賢明利用（ワイズユース）企画の提案を公募するなど、住民自身が未来志向で企画を考え実施することで、中海への関心や気運を盛り上げる。

2 取組みの成果

鳥取・島根両県共通の地域課題に対するNPO等と行政とが連携した課題解決へ取組みや、「中海海開き」、「中海夕暮れコンサート」、「日本風景街道」などの住民主体の取組により地域住民の中海へ意識向上が図られている。

3 今後の取組み

(1) 鳥取・島根広域連携協働事業〔鳥取県・島根県〕

- ・平成28年度、29年度の2ヵ年事業で、鳥取県、島根県の民間団体2者による「藻が〜る一鬼太郎もびっくり！ご縁を結ぶ中海のお・ご・の・りー」事業を実施中。
- ・平成28年度は、事業計画を策定し、今年度は、策定した計画に基づき事業を実施する。

(事業内容)

- ・農家等に対する勉強会の開催
- ・環境学習の実施
- ・水質や生物への影響検証 等

(2) 日本風景街道活動の推進〔湖水街道推進会議〕

- ・県が整備したルート案内看板、二十社寺案内看板、道の駅ブース等を活用し、地域にある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動を、推進団体である湖水街道推進会議と行政が一体となって推進。

(3) 中海夕暮れコンサート〔中海夕暮れコンサート実行委員会〕

- ・中海の夕日のすばらしさを実感して「未来の中海の姿」を思い描いてもらう機会の創出を目的に、5月下旬から9月下旬にかけて土曜日の夕暮れ時に中海湖岸でコンサートを開催（平成29年度は5回開催予定）。

(4) ミズベリング・プロジェクト〔国土交通省〕

- ・水辺の新しい活用の可能性を創造し、賑わいと活力ある水辺とまちづくりを目指す取組みを通じて、ワイズユースを促し、住民の活動への参加を推進し水辺とつながる活動を展開。

4 これまでの取組み

(1) 鳥取・島根広域連携協働事業〔鳥取県・島根県〕

- ・平成24年度は両県NPOの共同体が提案した「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業を、鳥取・島根広域連携協働事業として採択し、支援。
- ・平成24年6月にはこの事業の一つの「中海オープンウォータースイム」が開催され、以降両県で後援している。

(2) 日本風景街道〔湖水街道推進会議〕

【平成22～25年度】

- ・島根県内の風景街道ルートにルート案内看板や二十社寺案内看板を整備。
- ・道の駅9箇所、風景街道ルート名大型看板、ルート地図板、PRブースを整備。
- ・道の駅「本庄」近傍、外2箇所にビュースポット（東屋、風景解説板、ベンチなど）を整備。
- ・大山寺付近に二十社寺案内看板1基を追加

【平成26年度】

- ・日本風景街道大学しまね校開催（H26. 11. 7～8）



(3) 中海海開き〔NPO法人未来守リネットワーク〕

- ・中海周辺の地域住民等を対象に、中海の浅場の水質改善により生き物たちが戻り始めていることを体感させ、今後の中海再生に役立てるため、平成22年度からNPO法人主催で実施。



(4) 中海夕暮れコンサート〔中海夕暮れコンサート実行委員会〕

- ・米子水鳥公園などで平成19年度から毎年開催。



(5) ミズベリング・プロジェクト〔国土交通省〕

- ・境港市夕日ヶ丘地区で「水辺で乾杯」（7月7日午後7時7分に乾杯）を平成27年より毎年実施中。



(6) 中国の学生視察の受け入れ〔認定NPO法人自然再生センター・島根県〕

- ・中国の学生による中海の茂刈り体験を実施。中海に繁殖し過ぎた藻を、伝統的な手法で刈りとり、畑の土壌改善資源として有効活用する循環型システムの意義を伝えた。

※（公財）日中友好会館が実施する「JENESYS2.0」による学生視察



(7) 中海・宍道湖の食を広めよう会〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・中海や宍道湖に生息する魚介類などの「食」を通じて、中海の環境について、住民等に身近に考えてもらうイベントを開催。

